
Realistic Dream 【THE DREAM MAKER】

南 勇希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Realistic Dream 【THE DREAMMAKER】

【Nコード】

N9644A

【作者名】

南 勇希

【あらすじ】

再び夢に堕ちた俺は、以前とはまったく別の感情であった…。

〔Introductory chapter〕（前書き）

この話は、前作の続編となります。

今回の話は、15年後の俺が経験する物語。

成熟した気持ちが多く、感情の中で揺れ動く物語に出来上がる予定です。

飽きずによりしくお願いします。

〔Introductory chapter〕

Realistic Dream 【THE DREAM MAKER】

+++++

〔Introductory chapter〕
+++++

あの夢から13年後の夏。

熱帯夜に寝苦しさを感じていた。

窓を開けっぱなしにしているが、

窓からは生暖かい風が入り込んで発汗を誘っていた。

ふと見た時計の針は、1時48分……。

俺は、扇風機を足元に向けた。

……あんま涼しくねえな……。

瞳を閉じ、寝る事に集中しようとした時。

下から、若い女のあえぐ声と、テンポのよい、壁に何かが当たる音が聞こえてきた。

……くそガキが！……

毎晩続く、

その行為には、俺も怒る気にはなっていなかった。

…子供だけは、作るなよ……。

その行為の声を聞きながら瞳を閉じる
枕元の時計の針が、秒を刻む……………。

チツ、チツ、チツ、…………。

チツ、チツ、…チツ、…。

チツ、…チツ、…チツ、…チツ、…………。

秒がズレはじめ、

俺は、薄い記憶が途切れはじめ…………そして、
…………眠りについた…………。

ブァン！キシーン！

ブァン！バァン！キシーン！

その音に俺は、瞳をゆっくりと開けた時。

その時！

俺の目の前には…。

紫紺色の光が弧を描いていた。大きく…小さく…時には…………。

その光に対峙する白銀の光、その光も弧を描いていた。時には大きく…そして、小さく…………。

その光が交わる度に、その2色は細かな光の屑を散らす！
辺りは暗く、ゴツゴツした岩肌が光に映し出されていた。

白銀の光が真っ直ぐに上に向かって伸びた。

紫紺色の光は下へ伸びた。

二人だけの息が荒々しく響く。

一触即発の緊張感が、

その場の雰囲気であった。

次の瞬間！

大勢の人間が俺を通り過ぎて行く！！

白髪の少年…

長い黒髪の少女…

野球帽を被った少年…

短い髪の少女…

やくざ風の男…

巻き髪の女…

フードを被った少年…

体格の良い、筋肉質な男…

スタイルの良い、踊り子風の女…

整った顔の男…

白いスーツの女…

シルクハットの男…

背中を向けている女…

そして…

以前の恋人…久美子…

微笑んでいる愛らしい少女…

3歳ほどの子供…

最後に…

嫌らしく輝く瞳…

そこには……。

俺は、目が覚めた。

まだ、辺りは真っ暗だった。

慌て時計の針を見ると、

1時54分……。

…嘘だろう? ……。

下の部屋からは、最後の声と共に壁を強く打つ!

…………。

俺は、この夢の意味を考えた。

何に繋がる夢なのかを考えた。

しかし…答えは出て来なかった…。

そして……、

一年後……。

【断片的な夢】から、この話しは続く…。

【断片的な夢】（前書き）

いよいよ夢の世界に堕ちる。
この時を待っていた俺？がいた。
やけに冷静な俺だが、その夢は…。

【断片的な夢】

俺の名前は、伊達武志。

年齢は36歳。

四捨五入をすると40代になる青年とも言えない年代の男だ。決まった時間に会社に出勤するとサービス残業の毎日の中で、起きると仕事、寝ると起きる…と言う単調な毎日を暮らしていた。この単調で平凡な毎日を暮らせる事で幸せを感じていた。

そして、言うまでも無く、俺は独身である。

ただ一つ、人に言えない事がある。

それは、現実的な夢を…信じている、体験している事だ！！

7月19日。

今日も、いつもの様に酷使した体を酒で癒すと、心地よい気分の中でベッドに体を沈める。

少し湿った感じの布団の中に潜り込むとすぐに眠りについた。

…いつもの事だが…

しかし、今日の眠りの感覚には少しだけ違う感じがしていた。

眠った感覚が…。

そう思ったその時！！

冷たい風が体を通り過ぎる。

俺はゆっくりと瞳を開けた。

そこは、あの洞窟だった。

10年以上も前に体験した【現実的な夢】の舞台の洞窟…。

俺は、自分がやけに冷静な事に驚いていた。

…時が来たか…。

この時を待っていたかのような気持ちが体を駆け巡った。

俺は、深呼吸をすると、あの扉へと歩き始めた。

…同じ風景だ…。

扉に着くと、あの時の子供らがいない事に気付いた。
静かな空気が流れる。

少し辺りを見渡してから、大きな扉の取っ手に手を当てた。
そして…。

扉を開けると同時に激しい光に包まれ、俺は瞳を閉じた……。

次の瞬間。

瞳を開けた俺は、地元大館市を走るバイパスの中央線の上に立っていた。

……。

冷静な自分がそこにいた。

そして、何かの気配で振り返る。

その先には…。

白髪の少年が立っていた。

俺は、少年を凝視していた。

少年は、動く気配すら感じられなかった。

その気配は、確固たる自信に満ち溢れている様に感じられた。

俺は、少年の自信とも感じられる態度に聊か恐怖を感じていた。
それから間もなく腰から剣をゆっくりと抜くと、俺を見た。

そして…。

あっと言う間に俺の前に来ると、その剣で俺の胸を突き刺した。
…うっ。

痛みは無いが衝撃が心に走った。

俺は、後ろに倒れ込み、静に瞳を閉じた……。

次の瞬間。

俺は、水の浸る感じに目が覚めた。

そこは、同じ大館市にあるドーム前にある、浅い池の淵だった。

俺は、ゆっくりと立ち上がると、あたりを見渡した。すると、浅い池の真ん中から、少女が上がってきた。濡れた髪は背中まであり、鋭い眼孔で俺を見ていた。そして、俺に向かって何かを投げた。

…ナイフ……。

数本のナイフが俺の体に突き刺さった。が、やはり、痛みは無い。

しかし、俺の心に衝撃が走った。

再び、俺は後ろの砂利に倒れ込んだ。

そして、ゆっくりと瞳を閉じた……。

次の瞬間。

俺は、雑踏の中でゆっくりと瞳を開けた。

そこは、市内にあるショッピングセンターIONEの中だった。

無数の黒ずくめの人が入り口から入って来ていた。

……今度は何が起こる？

俺は、その人達を、目を細めて見ていた。

すると、白いスーツのスレンダーな少女が目についた。

…今度はあいつか？

と思った瞬間。

雑踏がとまり、一気にこちらを向いた。

…今度は…なぶり殺しかあ？

よく見ると全員仮面をしている。

…まじかよ……。

俺は、その雑踏に押し倒されると、かきむしられた、着ているものがボロボロになり、鋭い爪が肌を裂き始めているのを感じた……。

俺は、意識を失いかけた。

その時、俺の右手を掴み、力強くその雑踏から引き抜かれた。

…なんだあ？

俺は…：懐かしい香りと糸の様な髪、そして、オレンジ色の唇が見えた、

彼女は何かを言っている…：が俺には分らなかった。

そして…：やさしく体を覆う様な風が足元から感じた時に目が覚めた。

俺は、ゆっくりと瞳を開ける。

そこは…。

俺が住んでいるアパートだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9644a/>

Realistic Dream 【THE DREAM MAKER】

2010年12月21日18時17分発行